学校番号	1006

令和２年度　国語科

教科	国語	科目	国語表現	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	「国語表現」　（京都書房）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

近年益々必要とされてきた「話す、書く」に関する方法を知り、実践的な活動を積み上げることで、高いコミュニケーション能力を身に付けることをめざす。
的確にわかりやすく話すこと、また、しっかりと聴くことを、レジュメを作って発表することや、評価すること、インタビュー記事をまとめること等によって会得することをめざす。
通信文の型を知り、書くことによって自らの思いや考えを発信できることを知る。
小論文を書いて、意見表明の方法を知る。他の生徒の小論文を読んで、評価する。
また、詩歌の創作や小説の創作にも取り組み、豊かな日本語の世界を感じ、表現する喜びを知らしめたいと考える。

2　学習の到達目標

話す、書く、考えるために必要な方法を知り、実践的な活動を積み上げることにより、コミュニケーション能力を身につけることをめざす。
社会に出た時、自己表現のできる能力を身に付ける。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	e:知識・理解
観点の趣旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
主たる評価方法	行動の観察 記述の点検 （ノート、ワークシート等）	行動の観察 （発表等のパフォーマンスの評価）	記述の確認及び分析 （ワークシート、原稿用紙）	行動の観察 記述の確認 （ノート、ワークシート等） 定期考査 小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	e		
一学期	表現のスタイルを知る。	○自己紹介文を書く。 ○自己紹介のスピーチをする。 ○原稿用紙の使い方を身につける。 ○エッセイを書く。 ○通信文を書く。 手紙 メール それぞれの型を知り、書いてみる。	◎	○	○	○	a:何のために、誰に向かって、どのような条件で話すのかを考えようとしている。 b:何のために、誰に向かって、どのような条件で話すのかを考えている。 c:話すこと・聞くこと、書くことに必要な技能について理解している。 e:話すこと・聞くことに必要な文の組立てについて理解している。	a,b,e:行動の観察と確認 c:記述の点検と確認
二学期	表現のテクニックを磨く。	○調べたこと、考えたことをまとめ、プレゼンテーションをする。 ○ディベート等で討論し、自分の意見を的確に伝える力を身につける。 ○小説文を書いて、記述により自分の考えを的確に伝える力を身につける。	○	◎	○	○	a:相手の考えを踏まえて自分の考えを説明したり、書こうとしている。 b:相手の考えを踏まえて自分の考えを説明したり、考えを相対化したりして話したり、聞いたりしている。 c:相手の考えを踏まえて自分の考えを相対化して書いている。 e:話すこと・聞くこと・書くことに必要な、文章の形態や文体の違いによる特色について理解し、身につけている。	a,b,e:行動の観察と確認 c:記述の点検と確認
三学期	創作者になろう。	○短歌、俳句創作相互に批評する。 ○小説を書く。 パソコンを使い、作品集を作る。	◎		○	○	a:言葉による創作に意欲的に取り組もうとしている。 c:表現に工夫をしている。 e:創作において、文章の形態や文体の違いによる特色について理解している。	a,c,e:行動の観察と確認

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:話す・聞く能力 c:書く能力
d:読む能力 e:知識・理解

※ 評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて○印を、また、その単元で主として扱う国語の領域(「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」)に関わる観点には◎を付している。